

協議会への期待(1)

—日本民族総福音化と
祈りと路傍伝道—

希望の教会吉祥寺・上野原牧師

尾形守



日本民族が総福音化され大リバイバルを見ることは、私にとつての祈願でもあります。日本民族総福音化運動が超教派でなされまことは、大いに奨励されることで

す。民族総福音化のために、私たちは今何に専念したらよいでしょうか。聖書は言っています。「そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」(使徒六・四)。使徒たちは、祈りとみことばの奉仕に専念しました。大リバイバルはいつも霊的基本に徹底することから生まれると信じます。祈りとみことばです。日本民族総福音化、これは私たちの共通したビジョンです。このためには、祈りとみことばの奉仕に専念する覚悟が必要です。

超教派の祈祷運動

約六年前に聖会で私は主から幻とチャレンジが与えられました。日本に祈りの地震が起こり、日本

中に祈りのリバイバルが起こると挑戦です。聖霊は祈りの霊(ゼカリヤ十二・一〇)です。祈るところに聖霊の働きは顕著に現れます。今までの歴史で、祈りなくしてリバイバルはありません。神さ

まは日本の大リバイバルのためにまず超教派で祈ることの重要性を教えてくださいました。数名の牧師先生のご協力を得て、新宿で毎月第三月曜午後十時半から翌朝四時半に全日本大リバイバル徹夜祈祷聖会がスタートし、今年で六年目です。日本の大リバイバルと救いのため、祈りの霊が日本中を覆われるように今祈り続けています。全国に超教派でも祈りの運動が広がりますように、また皆様のごところでも超教派の徹夜祈祷や断食祈祷などの働きがさらに進みますようにお祈りいたします。

路傍伝道推進運動

また今年三月、徹夜祈祷聖会中、全員で祈っていると、神さまは私

に幻をくださいました。沖縄から北海道まで全日本で路傍伝道が燃え上がっている幻です。すべての教会・教派・クリスチャン達が会堂や建物から出て行き、未信者のいる所に行き、日本中で路傍伝道が広がり、日本でクリスチャンや

教会が路傍伝道が当たり前の時代になり、日本中が福音を聞き、民族が総福音化される幻です。日本民族総福音化のため、この全日本大リバイバル路傍伝道推進運動が全国に広がり民族総福音化と大リバイバルを受け取ることができましようにお祈りくださり、皆様の教会からも出て行き、最寄の駅前でも広場でも公園でも家々でも路傍伝道が広がりますようにご参加ください。一人の信者でも聖霊の力で路傍伝道に燃えるなら、日本に外国の有名な説教者が来て伝道する以上にもっと多くの日本の未信者に福音伝道ができます。この路傍伝道推進運動はたった一人のクリスチャンからも始めることができます。大伝道集会のために多くの準備時間やお金を費やさなくても、すぐ出て行って数え切れない人々に伝道することができます。私たちが毎月第三月曜午後七時から八時に新宿駅アルタ前で超教派の路傍伝道を始めます。皆様自身や皆様の教会や教派から路傍伝道を始めてみてください。もう

すでにされておられる方々は互いに励まし合い、さらに日本全国に路傍伝道が広がり、民族総福音化実現を目指していきましょう。

主イエスは言っています。「神を信じなさい(ギリシャ語直訳…神の信仰を持ちなさい)。(マルコ十一・二十二)。全能の神さまを信じ、神さまがお持ちの信仰を私たちも持つていくのです。神さまの信仰は、季節はずれでも実がなる信仰です。神さまには不可能はありません。季節はずれでもいちじくの木に実がなる信仰です。神さまの信仰はみことば信仰でもあります。「信じる者には、どんなことでもできるのです。」(マルコ九・二十三)。この「どんなことでも」の中に日本の大リバイバルもあります。神さまは霊的荒野の日本を必ず大リバイバルの祝福された場に変えてくださると信じます。日本民族総福音化のために、教派を越えて共に手を携え合い、祈りと路傍伝道の福音宣教に共に立ち上がりましょう。

「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」(ルカ十八・一)

「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」

(マルコ十六・十五)

協議会への期待(2)

— 総福音化のため、

ともに祈ろう！ —

むさしの神の愛教会牧師

長谷川乃武男



「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」

(ヨハネ三・十六)

「総福音化」は私の熱い願いであり、クリスチャンとなった時から祈っていた事です。

一九九七年四月二十五日。私達の家庭集会で「特伝会」を開き、講師として申賢均先生をお招きしました。私は申先生が異言で祈っているのを見て、この力を是非とも頂きたいと思いました。当時の私は、自宅を開放して家庭集会を持つ傍ら、国立駅前の商店街で、伝道のための「立ちそば店」を開いていました。私は暫く前から祈りの中で、主から「フルタイムで伝道しなさい」と導かれていますが、立ち上がるには、聖書にあ

るように「力ある異言の祈り」が欲しいと願っていました。「特伝会」の後の交わりの時、申先生は「今年の八月、ヨイド広場で『大韓民国民族総福音化大聖会』を計画しています。帰国したら、四月一日から四〇日間の断食祈禱を始めます。聖会の勝利と私の断食が守られるように祈ってください」と言われました。私は「フルタイム伝道に必要な力が欲しいので、先生とご一緒に一〇日間の断食祈禱をしたいのですが如何でしょうか？」とお聞きしましたら、先生は即座に快諾してくださいました。

四月十一日午前十一時、金浦空港着。ロビーへ通じるドアを開けると、出迎えに来てくださった申先生ご夫妻のお顔が見えました。私は決意を新たにして、先生の車で「オリーブ山祈禱院」へ向かいました。申先生専用の祈禱室は、祈禱院の真上に建っていました。

此所にお伺いしている間に、色々なことを学びましたが、中でも同胞の救いのために祈っておられる申先生の姿に接することができたことは、私にとっては、何物にも代え難い収穫でした。加えて主なる神様は私の心の奥深くに「御霊の油注ぎ」を成してくださいました。心から主に感謝しています。先生とご一緒に祈っているうちに、私は徹底的に「祈ることの重要性」を学びました。神の御心を動かすことが出来るもの、それは一に祈り、二に祈りです。

一〇日間の断食祈禱に勝利し、帰国するとき、申先生から「八月の大聖会に来て、私の作詞した歌を先生の教会の皆さんに歌っていただけますか？」と。ご招待を頂いた私は、音大生中心の賛美チームを編成して、大会に参加しました。大会のために設けられた講壇の高さは地上三〇メートルほどありました。賛美と挨拶のため、講壇に上って会場を見渡すと、大会衆でヨイド広場の先端は霞のように見えました。聖会には、毎回百数十万人の人々が全国各地から集まった、と聞いています。救霊に燃えている韓国でもこれだけの人が集められたのは「聖霊様の力」が働いたからです。この様子を目

の当たりにした私は、半年前に申先生がオリーブ山祈禱院で、四〇日間断食して祈っていた姿を思い出しました。私はこの時、「真のリーブバルを求めらるなら、真摯に祈りつづけることしかない」という『祈りの重要性』をいま一度学びました。

私は今年七十九歳ですが、聖霊様に押し出されて、春と秋の二回『断食祈禱聖会』を開いております。小さな働きですが、毎回、全国各地から、祈りの有志の方々（牧師・神学生・兄妹の皆様）がおいでになり、「しるしとふしぎを起こしてください」と心を一つにして祈りしています。会場は、埼玉県飯能市にある岩清水クリスチャーセンターです。聖会では、毎回多くの誓願が捧げられ、既に沢山の誓願が成就しています。

次回開催予定日は、来る九月六日（八月）（月）水）の二泊三日間です。『日本民族総福音化』のためにご一緒に祈りしましょう。

（断食祈禱聖会に関するお問い合わせは、長谷川（TEL）〇四二二五七二四七四九、FAX）〇四二二五七二九八三九）に直接お願いします）